

軽音部設立へ孤軍ロック

【芦別】皆で心を通わせ音楽を奏でたい。芦別高軽音楽同好会で唯一活動を続ける2年生の北村洗さん(17)が、同好会を部活動に昇格させようと奮闘中だ。部活動として認められるためには、活動を継続できる部員数の確保が求められるため、メンバーの勧誘に力を入れる。北村さんは「市内のイベントなどにも出演したい」と期待を込める。



札幌厚別高の冬合宿に参加し練習する北村さん

芦別高・北村さん 同好会で活動

北村さんはロックやロカビリーなどが好きだった父の影響で洋楽に興味を持ち、中学1年のころから独学でギター演奏を始め、学校祭などで披露していた。芦別高入学後は、女子生徒3人とともにバンドを組み学校祭で演奏。24年4月には軽音楽同好会を発足させた。ところが3人はアルバイトなどを理由に、同年7月の学校祭での発表を最後に活動を停止。メンバーは事実上北村さん1人になった。

芦別高の部活動は縮小傾向だ。10年前と比較すると、生徒数は117人と3分の1以下、部活動も8とほぼ半減。部活動加入率は35%と3分の1となった。同校は「放課後は、アルバイトを希望する生徒や、自分の時間を自由に使いたいとする生徒が増えたため」と説明する。

「新生入生 一緒にイベント出よう」

北村さんは、昨年9月に美瑛市で開かれた北海道高校軽音楽連盟主催の空知地区新人大会でエルビス・プレスリーのコピー曲を披露し、優秀賞と特別賞を受賞。今月芦別高で行われた札幌厚別高の冬合宿に加わり、厚別高生や同好会顧問の茅野彰彦教諭とバンドを組み、自作曲を発表するなど、地道に活動を続けている。

好きなアーティストはブライアン・セッツァーや山下達郎、大橋純子など。毎日2時間の練習をこなす。軽音楽の魅力について「皆で音楽を奏で、聴いた人から拍手をもらおうと達成感と爽快感もある」と話す。

部活動昇格は、1年以上の活動を経て生徒会の総会で、全生徒の3分の2以上の賛成が必要。昇格すれば、高文連の大会参加経費などが支給される。

北村さんは「新生入生に声を掛けてメンバーを増やしたい。少しでも興味ある人は気軽に練習を見学に来てほしい」と話している。

(安戸透)